



JAPAN FOUNDATION

国際交流基金

報道関係各位

プレスリリース

2017年5月2日

No. 2017-005

第57回 ヴェネチア・ビエンナーレ 国際美術展 日本館展示

アーティスト：岩崎貴宏・キュレーター：鷺田めるろ（金沢21世紀美術館キュレーター）

国際交流基金（ジャパンファウンデーション）は、ヴェネチア（イタリア）で開催される「ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の国別参加部門に毎回参加し、日本館展示を主催しております。

このたび、2017年5月13日から11月26日にかけて開催される「第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展」の日本館の日本代表作家に岩崎貴宏、キュレーターに鷺田めるろ（金沢21世紀美術館キュレーター）の両氏が決定し、「Turned Upside Down, It's a Forest/ 逆さにすれば、森」展を行うこととなりました。

つきましては、この機会にぜひ貴媒体で本事業をご紹介いただけますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

記

■第57回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 概要

【会 期】	2017年5月13日（土）～11月26日（日）
【主 催】	ヴェネチア・ビエンナーレ財団
【総合キュレーター】	Christine Macel
【公式ウェブサイト】	www.labiennale.org/en/

■日本館 展示概要

【タイトル】	Turned Upside Down, It's a Forest/ 逆さにすれば、森
【会 期】	2017年5月13日（土）～11月26日（日）
【主 催】	国際交流基金
【会 場】	カステッロ公園内 日本館
【出品作家】	岩崎貴宏
【キュレーター】	鷺田めるろ（金沢21世紀美術館キュレーター）
【特別助成】	公益財団法人石橋財団
【協 賛】	株式会社資生堂、日産自動車株式会社
【助 成】	公益財団法人テルモ生命科学芸術財団
【日本館ウェブサイト】	http://2017.veneziabiennale-japanpavilion.jp

■ヴェネチア・ビエンナーレ（Biennale di Venezia）について

ヴェネチア・ビエンナーレは、イタリアの島都市ヴェネチアの市内各所を会場とする芸術の祭典です。1895年に最初の美術展が開かれて以来、120年以上の歴史を刻んでいます。近年、世界各地で美術を中心に、国際的な芸術祭が開催されるようになってきていますが、ヴェネチア・ビエンナーレはそれらのモデル・ケースとなった最も著名な存在です。「ビエンナーレ」とは「2年に一度」を意味するイタリア語で、同様な芸術祭の多くが「トリエンナーレ」や「トリエンナーレ」（3年に一度）と命名されているのは、ヴェネチア・ビエンナーレに範をとったものとされています。現在、美術展、建築展、音楽祭、映画祭、演劇祭などを独立部門として抱えるようになりましたが、そのうち美術展は、最先端の現代美術の動向を俯瞰できる場として、また国別参加方式を採る数少ない国際展として世界の美術界の注目を集めています。

以上

主催者・本事業に関するお問い合わせ： 国際交流基金 文化事業部 事業第2チーム（担当：高取、大平、杉江）
Tel: 03-5369-6063 / Fax: 03-5369-6038 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

取材・広報画像のお問い合わせ： 大西晶子
Tel: 090-9621-5253 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

取材に関するお問い合わせ： 国際交流基金 コミュニケーションセンター（担当：熊倉、二村、常盤）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044 / E-mail: press@jpf.go.jp



Takahiro Iwasaki

Turned Upside Down, It's a Forest

第57回 ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展 日本館

岩崎貴宏 逆さにすれば、森



第57回 ヴェネチア・ビエンナーレ 日本館展示 開催概要

コミッショナー：国際交流基金

アーティスト：岩崎貴宏

キュレーター：鷲田めるろ(金沢21世紀美術館キュレーター)

会場：カステッロ公園内 日本館

会期：2017年5月13日-11月26日

オープニングレセプション：2017年5月11日 午後3時(現地時間)

プレス向けツアー：2017年5月10日 午後1時(現地時間)

住所：Padiglione Giappone, Giardini della Biennale, Castello 1260, 30122 Venezia

特別助成：公益財団法人石橋財団

協賛：株式会社資生堂、日産自動車株式会社

助成：公益財団法人テルモ生命科学芸術財団

日本館公式ウェブサイト：<http://2017.veneziabiennale-japanpavilion.jp>

展示概要

逆さにすれば、森

広島生まれ、広島在住の岩崎貴宏の個展。タオルや本、プラスチックゴミなど、身の回りにあるものを素材にした立体作品を7点、展示する。タオルの糸を引き出して小さな鉄塔をつくるなど、細かい手仕事も特徴である。このような小さな介入によって、例えば積み上げられたタオルを自然の山のように見せるという、「見立て」の手法を使っている。作品のモチーフは、海上に浮かぶ厳島神社や、瀬戸内海沿いにつくられた化学工場、海上のオイルリグなど、新旧含めた日本の海沿いの建造物である。原子力や資源開発などのエネルギー問題、戦後の経済の高度成長を支えながらも公害を引き起こした化学工場など、日本の中の周縁的な地域が抱える問題に目を向けた作品である。

鷲田めるろ

プロフィール



photo: Nozomi Tomoeda

アーティスト:

岩崎貴宏 | いわさき・たかひろ

1975年広島県生まれ、広島県在住。広島市立大学芸術学研究科博士後期課程修了。エジンバラ・カレッジ・オブ・アート大学院修了。

2015年、ニューヨークのアジアソサエティにて個展、同年、黒部市美術館と小山市立車屋美術館で個展を開催。第10回リヨン・ビエンナーレ(2009)、ヨコハマトリエンナーレ(2011)、第7回アジア・パシフィック・トリエンナーレ(2012)、2013アジア・アート・ビエンナーレ(国立台湾美術館)、第8回深圳彫刻ビエンナーレ(2014)などの国際展、「六本木クロッシング 2007 未来への脈動」(森美術館、2007)、「日常の喜び」(水戸芸術館現代美術センター、2008)、「trans × formーかたちをこえる」(国際芸術センター青森、2013)、「日産アートアワード 2015」(BankART Studio NYK)などグループ展への参加多数。



キュレーター:

鷲田めるろ | わしだ・めるろ

金沢21世紀美術館キュレーター

1973年京都府生まれ、東京大学大学院美術史学専攻修士課程修了。

地域や参加をテーマに現代美術や建築の展覧会を企画する。

主な企画に、妹島和世 + 西沢立衛 / SANAA (2005)、アトリエ・ワン (2007)、イエッペ・ハイン (2011)、島袋道浩 (2013)、坂野充学 (2016) の個展や、「金沢アートプラットホーム 2008」(以上すべて金沢21世紀美術館) などのグループ展がある。

広報用写真

広報用写真をご用意しております。下記、もしくはリリース内より希望画像の作品名、媒体名、掲載予定時期を明記の上、広報担当: 大西 venezia@jpf.go.jp までご連絡ください。

ご使用時の注意点とお願い

- ・写真の使用は、本展覧会の広報を目的とした掲載に限ります。
- ・写真をご使用の際は画像クレジットを記載ください。
- ・トリミング、文字載せ、画像の二次使用はご遠慮下さい。
- ・使用の際は事実関係の確認の為、記事校正をPDF形式でお送りください。
- ・掲載誌又は、掲載記事を担当者までお送りください。



Installation image of "Turned Upside Down, It's a Forest"



Out of Disorder (Turned Upside Down, It's a Forest), 2017



Tectonic Model (Flow), 2017



Out of Disorder (Ship of Theseus), 2017



Out of Disorder (Mountains and Sea), 2017



Out of Disorder (Offshore Model), 2017

all photos by Keizo Kioku
photo courtesy of the Japan Foundation
©Takahiro Iwasaki, Courtesy of URANO

本事業に関するお問い合わせ

国際交流基金 文化事業部事業第2チーム (担当: 高取・大平・杉江)
〒160-0004 東京都新宿区四谷4-4-1
Tel: 03-5369-6063 Fax: 03-5369-6068
Email: venezia@jpf.go.jp

取材・広報用画像のお問い合わせ

大西晶子 Tel: 090-9621-5235 / E-mail: venezia@jpf.go.jp

作品解説

1. Reflection Model (Lapis Lazuli)

山口市にある瑠璃光寺の五重塔をモチーフに檜で精巧につくった作品。池に写る反射像を、水上の部分と同一につくっている。それにより、作品に物質として存在しない水面が表現されている。反射像には実際には揺らぎがあるが、この作品では水上の部分と反射像の部分とが、全く同一につくられている。そのため、時間を超越した不思議な時空を感じさせるとともに、実在と像の境界を曖昧にする。

2. Out of Disorder (Mountains and Sea)

ヴェネチアと日本で集めたシーツやタオル、衣類が床に積み上げられている。近づいて目を凝らすと、その布から糸が引き出され、送電線の鉄塔や観覧車、ジェットコースターや線路などがつくられていることが分かる。洗濯物の山に見えたときは無秩序に感じたものに、自然の摂理のような法則を感じさせる。鉄塔は、都市から離れた火力や原子力発電所から都市部へと電気を運ぶ送電線で、日本の地方の山々によく見られる光景である。瀬戸内海は工業地帯として発展し、海岸沿いは埋め立てられて化学工場群がつけられた。ピロティに設けられた階段を登ると、墨汁で染めた雑巾でつくった海側からの光景を見ることができる。墨はすすを固めたものであるという意味では汚れでもあり、水墨画のイメージとすすで汚れた工場群のイメージが重ねられている。

3. Out of Disorder (Offshore Model)

日本の辺境の洋上で海底の石油を採掘するオイルリグをモチーフとした作品。石油製品である、使い捨ての弁当箱やストロー、ビニールシートでつくられている。基調となる黒は、原油のイメージであるとともに、墨を使った東洋の水墨画を想起させる。作品の背景には、近年の中国の経済的発展と拡大政策によって顕著になっている、海底資源の権利を巡る東アジアの海上の国境線の攻防がある。テーブルを覆う黒いビニールは水面に見立てられているが、テーブルの比率は、京都の龍安寺の石庭から取られている。砂利に模様を描く枯山水の代表的庭園で、水を使わずに水面を表現している。漂流するプラスチック・ゴミとオイルリグの配置は、この石庭の石の配置を参照している。枯山水という形式もまた、中国の庭園や水墨画に影響を受けながら日本で発展したものである。

4. Out of Disorder (Turned Upside Down, It's a Forest)

日本館の床のワックスがけに使っていたデッキブラシを、ヴェネチアの地下の木の杭に見立てて即興的に制作した作品。ブラシ部分がこのように固いタイプのデッキブラシは日本ではあまり見かけない。ヴェネチアの街はラグーンに無数に打ち込まれた木の杭の上に作られている。展覧会名となった「逆さにすれば、森」は、この杭を元に、視点を変えることの意味を込めてつけられている。デッキブラシの上の雑巾の糸を固めてつくられているのは、カナル・グランデ沿いのサンタ・マリア・デッラ・サルヴェ教会である。

5. Reflection Model (Ship of Theseus)

広島に近い宮島に、厳島神社という、800年以上前に作られた海上に浮かぶ神社がある。この作品は、この厳島神社が台風で壊れた様子をモチーフとした新作である。神社の中で最も重要なのは、展示室の入り口から見て一番奥側にある本殿である。本殿よりも手前の、海側に建てられた平舞台や廊下などは、外力を受けた際に、敢えて壊れやすつくられている。壊れることで、力を受け流し、弱めて、本殿を守っているのだ。作品のタイトル「テセウスの船」は、ある物体の全ての構成要素が置き換えられたとき、同一性を保つことができるのかというパラドックスから取られている。

6. Tectonic Model (Flow)

ヴェネチアで見つけた中古テーブルの上に、本が不安定に積み上げられている。本の葉をほどいて、クレーンの形をつくっている。それにより、本が工事中の建物のように見えてくる。本は地震が起こる仕組みや科学技術、さらにはエネルギー問題に関わるような内容のものが選ばれている。タイトルの「テクトニック」は、「構法」と「地殻変動」という両方の意味がある。不安定に積み重ねられた本の層は、大地の不安定さを示す。強固に見える大地も、長期的に見れば流れているものである。